



TITLE:

表紙・編集後記・目次

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・編集後記・目次. 英文学評論 1964, 15

ISSUE DATE:

1964-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/134972>

RIGHT:

英文學評論

第 XV 集

古代英詩における四季の概念 …………… 佐々部英男

オースティンの『エマ』について …………… 宮西光雄

【遺稿】 T・S・エリオットの方法 …………… 高谷毅

——シンポジウム——

米英における英語教育 …………… (司会) 中野正順

尾崎寄春・安藤正一・大浦幸男

京都大学教養部英語教室

目次

古代英詩における四季の概念 佐々部英男……(一)

オースティンの『エマ』について 宮西光雄……(二)

【遺稿】T・S・エリオットの方法 高谷毅……(三)

——シンポジウム——

米英における英語教育 (司会) 中野正順……(1)

尾崎 寄 春・安 藤 正 一・大 浦 幸 男

編集後記

『英文学評論』も、これで第十五集になる。昭和二十九年創刊以来のバック・ナンバーを製本すると、歳月の重味がずしりと手に感じられる。教室の先達、小林・山本の両先生も、古稀をお迎えになり、矍鑠として後進への喝をお忘れではない。宮西・中野両教授も、この三月、共に六十三回目の誕生日をお祝いになり、退官なさる。記念講義は宮西教授が「ミルトンと明治時代」、中野教授が「大学と外国語教育」であった。この号にはそれぞれの立場から執筆いただいたが、同じく教養部の紀要『人文』第十集にも共に寄稿願っている。同時に二人の長老をお送りするのは寂しいが、今後も学外から相変らぬご鞭撻を期待できよう。

ところで、教室は高谷毅助教授の突然の逝去で、さらに同志を一人失なってしまった。正五位勲六等に叙せられたが、途なかばにしてお仆れになったことは惜しみても惜しみでも余りある。ここに遺稿を掲載し、慎しんで哀悼の意を表したい。

さて、クライトン氏がキーン氏の後任として十二月着任。ケンブリッジ大学の卒業生で、来日前はフィンランドで英語を教えておられた。来年度からはL.L.の運営も始まり、語学教育も新生面を迎えようとしている。新帰朝の四氏によるシンポジウムはこうした機運に対応し、問題検討の指針ともなり、資料ともなるだろう。

また、尾崎・鳴原両講師は、今年、相次いで助教授に昇進。さらに教室は春を待って新しいメンバーを加え、新学年に備えることになる。一見平穏に暮れていく毎日常が、喜びも悲しみもないまぜで、私達の世界も変っていくようだ。(編集委員)

英文学評論 第十五集

非売品

昭和三十九年三月二十五日 印刷
昭和三十九年三月三十日 発行

編集者

京都大学教養部英語教室

代表者 山崎 正雄

印刷所

内外印刷株式会社

京都市下京区西洞院七条下ル

発行所

京都大学教養部英語教室

京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

VOL. XV. March 1964

CONTENTS

| | |
|---|--------------------------|
| Four Seasons in Old English Poetry | <i>Hideo Sasabe</i> |
| How to Read Jane Austen's <i>Emma</i> | <i>Mitsuo Miyanishi</i> |
| The Method of T. S. Eliot | <i>Tsuyoshi Takatani</i> |

[SYMPOSIUM]

English Education in England and America

| | | |
|-----------------------|------------------------|-------------------|
| | <i>Masanori Nakano</i> | |
| <i>Yoseharu Ozaki</i> | <i>Shoichi Ando</i> | <i>Yukio Oura</i> |

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY